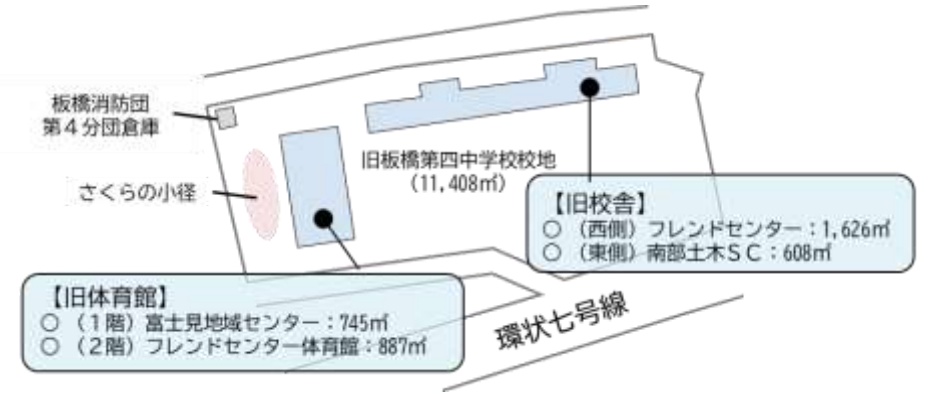
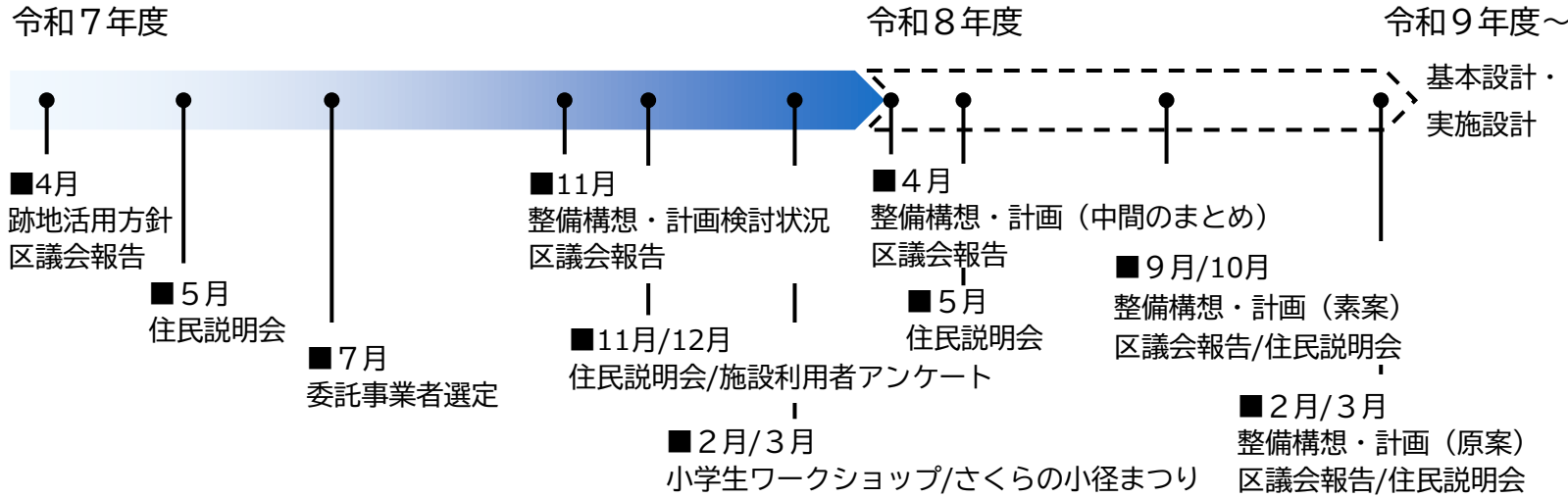


1 これまでの検討状況・今後のスケジュールなど



所在地	富士見町3-1（住居表示）
敷地面積	11,408 ㎡（旧校舎）8,583 ㎡、（旧体育館）2,825 ㎡
施設面積	（旧校舎）4,151 ㎡、（旧体育館）1,632 ㎡

2 子ども・施設利用者・地域への意見収集

小学生ワークショップ

【テーマ】  
みんなで考えよう！新しい建物づくり 旧板四中跡地でやってみたい活動

【実施概要】  
対象：板八小5年生（総合学習）  
内容：テーマに対して自由な意見を出し合い、出された意見をAIを活用して画像作成・発表時に共有→さくらの小径まつりにてパネル展示し、地域住民へ広く展開

【主な意見】

- カフェ空間で落ち着いて読書しながらのんびり過ごしたい。
- カラオケやケーキづくりなど、地域の大人たちと楽しみたい。
- プライベート空間で、創造的な活動をしたい。
- 広いグラウンドで野球やサッカーなどを思い切り楽しみたい。
- ボウリングやポッチャ、ボルダリングなど、天候に左右されることなくみんなで体を動かしたい。



WSの意見をもとにAIにて生成した画像



さくらの小径まつりの様子

施設利用者アンケート・住民説明会

【実施概要】  
施設利用者アンケート：旧板四中等へ集約複合化する施設利用者へ実施（回答118件）  
住民説明会：富士見地域センター、大原生涯学習センターで実施（参加者73名）

【主な意見】

- 広場が少ないため、気軽に体を動かせる空間を求める。
- 備蓄物資が豊富で、炊き出しなどを想定した避難所運営が可能な施設になるとよい。
- 校舎解体の際は、卒業生などを招いたイベントを望む。
- 広場周辺に憩いのスペースや遊具が充実しているとよい。
- 桜の小径等への影響を最小限にするよう配慮してほしい。
- 無料で利用できる学習スペースや、若者が気軽に集える交流スペースがあるとよい。



3 検討課題

空間・整備機能の最適化

- 多目的スポーツ広場とフレンドセンターなど、異なる機能の適切な配置
- 創造性をはぐくむ居場所機能と多世代交流を促進する機能の複合化による相乗効果の創出

防災機能の両立

- 平時利用と災害時の防災拠点としての機能両立
- 災害時の運用など、区の防災力強化にかかる課題解決の必要性

運営の時間的柔軟性

- 曜日や利用時間帯によって変化するニーズへの対応
- 多目的スポーツ広場や体育館スペースなど、同一空間の多目的利用を可能にする運営方法

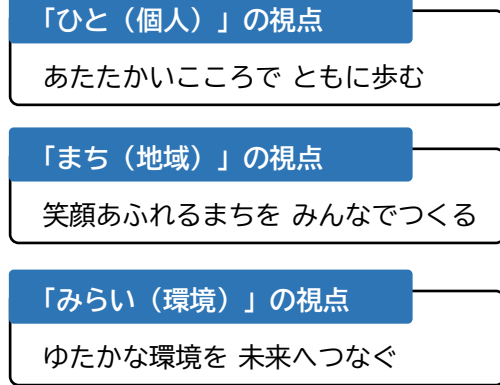
地域資源の保存

- 桜の小径など、地域に愛されている景観要素の保存への配慮
- 地域行事の継続性を担保可能な空間整備の必要性

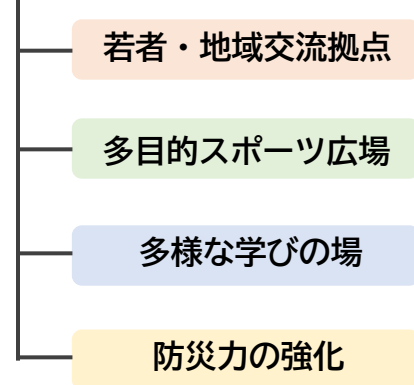
## 4 施設整備構想

板橋区基本構想及び活用のコンセプトを踏まえ、改めて基本方針等を設定する。

### ■ 板橋区基本構想「基本理念」



### ■ 活用のコンセプト



整合・連携



※

将来像の実現に向けて、**創造都市** の考えを踏まえた施設へ位置づける

※区民一人ひとりのアイデアや工夫を原動力に、地域に新しい価値やあたたかなつながりを創り出すまちのあり方。

### 基本方針

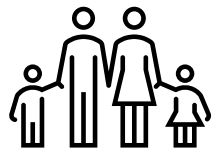
持続可能な地域のつながりと愛着をはぐくむ

**ひととまちをつなぐ みらい創造・交流拠点**

### 基本理念

#### 「ひと（個人）」

#### 居場所空間の創出

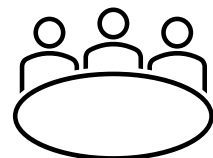


子ども・若者・子育て世代が背景を問わず集い、自分らしく過ごせる居場所空間の創出

▶ 想定機能：フレンドセンター（体育館含む）、CAP'S富士見台児童館、大原生涯学習センター(i-youth含む)

#### 「まち（地域）」

#### 共創空間の構築



「創造」を核として地域・多世代の交流を促進し、誰もがともに学び・教えあう共創空間の構築

▶ 想定機能：富士見地域センター、大原生涯学習センター(i-youth含む)、ボランティアセンター、多目的スポーツ広場

#### 「みらい（環境）」

#### 災害拠点の整備



区民の生命・財産を守るため、災害時を想定してすべての人が安心・安全を実感できる災害拠点の整備

▶ 想定機能：南部土木サービスセンター、ボランティアセンター、防災倉庫、避難所

## 5 施設整備計画の検討状況

施設整備構想で定めた基本方針・基本理念を具体化する整備計画の検討を進める。

### ■ 建物構造・機能

- 地域に親しまれている桜の小径の保存や地域行事が継続できるしつらえ検討
- フレンドセンター機能の出入り口や施設配置など、プライバシーに配慮された空間整備を検討
  - ▶ 地域に愛されている**桜の小径の保存を前提**とし、より地域に親しまれる空間整備に向けて検討
  - ▶ 上記を踏まえ、「旧板四中跡地活用方針」で示したイメージにとらわれず、**建物上部の多目的スポーツ広場の整備**も視野に検討
- 環状七号線に接する好立地を活かし、**区全体の防災力強化を図る機能充実**を検討
- 子ども・若者及び多世代交流推進拠点機能の検討
  - ▶ 児童館とi-youth機能の融合及び地域センターによるつながりの居場所を含めた機能の具体化に向け、必要となる空間・設備などを検討



建物上部に整備されたスポーツ広場例  
(浮間舟渡フットサルパーク)



旧体育館棟に隣接する桜の小径

### ■ 運営方針

- 多様な機能が融合し、相互連携が促進される空間など、複合施設のメリットを最大限活かした最適な運営計画を推進
- 施設利用者の団体登録の要件等を改めて整理し、適切な運営・料金体系を設定
- 多くの利用者に配慮するため、多目的スポーツ広場などは**曜日・時間帯に応じて開放時間を切り替える**ことができるよう検討

### ■ その他整理すべき検討課題

- 建物構造や施設配置案、管理運営計画を踏まえ、民間活力導入の可否を検討
- 既存機能が切れ目なく運営が可能となる仮設計画・移転計画を推進
- 環状七号線沿いの好立地を活かした、効果的な動線の考え方を整理